

# 平成28年度 学校評価表

島根県立松江商業高等学校

※達成度は、目標値に対する評価値の割合。(評価値/目標値)

※評価 A(目標達成):100≦ B(ほぼ達成):70≦, <100 C(できていない):<70 ※学校関係者評価 A:達成できている B:概ね達成できている C:できていない

評価計画													学校関係者評価		
評価項目	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	目標値(A)	資料	評価値(B)	達成度(B/A)	評価	結果と課題の説明	評価	コメント		
								アンケートは1月統計は2月							
学習指導	学力の向上	望ましい学習習慣の形成	教務	①授業の始めと終わりの時間厳守とあいさつの徹底 ②学習規律の確立を目指した授業づくり	わたしは、授業に積極的に取り組んでいる。	90%	アンケート(生徒②)	84%	93%	B	① ある程度達成できているが、「授業に対する姿勢」について生徒・教員ともに意識を深めていきたい。  ② 検定前や定期試験前はほとんどの生徒が家庭学習時間を確保し課題に取り組んでいるが、普段の取り組みについては時間を確保できていない生徒も多い。課題の提示方法などに工夫を施すよう教員は意識したが、その成果はまだ十分ではない。生徒に目標を持たせ取り組ませよう、更に工夫したい。  ③ 昨年度まで、「考えさせる授業」、「わかる授業」をテーマとして授業を展開し、生徒の実態に合った授業が展開できるようになってきた。今年度は、「アクティブラーニング等の能動的な学習」をテーマとした授業展開を目標として取り組んだ。意識することで授業改善に反映していると感じている。今後更にアクティブラーニングの研究を進めていきたい。	B	・生徒が主体的に学習をするための「アクティブラーニング」の取り組みについて評価をしたい。  ・H29年度の入試で本校志望者が増えたことは、今までの学校の取り組みが評価された結果である。  ・今後も、指導過程はもとより、教材や教員の工夫などにより、生徒が自ら学ぶことのできる授業改善に向け教員の一層の研鑽が望まれる。  ・学校行事も大事だが、授業時間の確保は学校の責任であり、進路決定にも重要なので、バランスを取って欲しい。  ・少子化が進行する中、生徒も多様化している。今以上に個に対応した指導や補充授業が必要であり、教科指導において、習熟度別学習等の導入も検討していくことも必要である。  ・生徒一人ひとりの声に耳を傾けながら、個々に合わせて学習への目標、目的意識を持たせる工夫をお願いしたい。  ・生徒自身の積極的な学習意欲の向上を図ってもらいたい。		
				先生は、生徒の授業態度に対してはじめのある指導をしている。	100%	アンケート(生徒⑨)	92%	92%	B						
				①適切な課題による家庭学習の習慣化	わたしは、授業の予習・復習や検定試験の家庭学習に計画的に取り組んでいる。	70%	アンケート(生徒③)	45%	64%	C					
		生徒に家庭での学習を促すよう、教科指導や課題を工夫した。		90%	アンケート(教員①)	74%	82%	B							
		①研究授業、公開授業等の実施 ②生徒による授業評価の実施 ③評価基準の改善		先生は、わかりやすい授業づくりに努めている。	90%	アンケート(生徒⑩)	87%	97%	B						
		授業アンケート結果に基づき授業改善に取り組んだ。		100%	アンケート(教員②)	82%	82%	B							
	教育環境の整備	生徒の学習を支援する体制の充実	教務	①学習内容(シラバス)の充実 ②授業時間の確保 ③個別指導、補充授業の実施	行事や特別活動に必要な時間と、授業時間のバランスは適当であった。	100%	アンケート(教員⑤)	53%	53%	C	④ 学校行事が多く、授業をカットしたり5分短縮授業を実施したりしたため、授業内容を深めることや反復練習することが難しかった。行事の精選を検討し、授業時数が確保できるよう努めたい。				
				商業教育の充実	商業	①検定補習、合宿の実施 ②検定ロードマップの作成	全商検定1級3種目以上取得者 80名	90%	統計資料	58%	64%	C	⑤ 全商検定1級3種目以上合格者数 3年生:46名 (2年生は32名、経済産業省主催検定は9名合格) 特に簿記検定の取得者が少なかったことが影響した。	A	・松商だんだんフェスタは学校で学んだことの発表の場で、生徒が生き生きと光り輝いている姿は、平素の学習が充実していることの現れであり感銘を受けた。  ・資格取得は重要であると思う。  ・企業ではエクセル、ワード、パワーポイントの操作は必須である。今後は電話対応の指導もお願いしたい。
						①ビジネスマナー指導の充実 ②「松商だんだんフェスタ」の充実	ビジネスマナー指導は自分にとって役に立つ。	90%	アンケート(生徒⑫)	87%	97%	B	⑥ 体験学習の場面は大切にしたい。「松商だんだんフェスタ」では、店舗の構成を第1回以来の縦割り編成にした。各店舗とも3年生の店長を中心として一定の成果はあったと思う。また、フェスタ用のポスター・キッズの募集チラシ等は生徒の作品を採用した。		
						「松商だんだんフェスタ」は有意義である。	90%	アンケート(生徒⑧)	88%	98%	B				
生徒指導	基本的生活習慣の確立	生徒	望ましい生活習慣の育成	①生徒会、教職員による登校指導と適切な声かけ ②身だしなみ指導の計画的実施 ③礼法指導の徹底 ④自転車運転マナーの向上	毎日きちんと学校に登校する生徒の割合(出席率)	99%	統計資料	98.5%	99.5%	B	⑦ 登校時あいさつ運動、生徒会によるあいさつ運動等、より一層取り組んでいきたい。身だしなみについても、近年落ち着いた状況であり、生徒の規範意識も定着しつつある。今後も、教職員が共通理解、共通歩調のもとで、継続的に指導を重ねていく。	A	・挨拶や生活マナーはしっかり指導されており、大きな効果が出ている。  ・「あいさつ運動」の輪を広げ、地域全体が気持ちよい挨拶のできる明るい町になるよう、本校がリーダーシップを取っていくことを期待したい。  ・生徒の身だしなみには品格があり、学校生活も全体的に落ち着いているように感じられる。  ・心に悩みを持つ生徒も多いと思われる。保健室での健康相談活動は極めて大切である。教職員が共通理解のもと、全職員上げて生徒を支えていく体制をさらに充実させて欲しい。		
				非遅刻率	99%	統計資料	99.5%	100.5%	A						
				わたしは、高校生らしい身だしなみを心掛けている。	90%	アンケート(生徒④)	96%	107%	A						
	健康管理・美化活動の推進	保健	望ましい生活習慣の育成	①保健室利用者に対する適切な指導 ②教育相談(さわやか委員会等)の充実 ③清掃指導の徹底 ④ゴミの分別処理の徹底	生徒との清掃活動において十分な指導・監督を行った。	100%	アンケート(教員⑨)	73%	73%	B	⑧ 清掃の不徹底箇所もあるので、清掃活動の意義を明確に示し、教職員・生徒ともに美化活動に努めたい。ゴミの持ち帰り・分別については概ね問題なくできている。保護者の理解・協力を得ながら継続したい。				
				わたしは分別や持ち帰りのルールを守ってゴミを処理している。	100%	アンケート(生徒⑥)	95%	95%	B						

# 平成28年度 学校評価表

島根県立松江商業高等学校

※達成度は、目標値に対する評価値の割合。(評価値/目標値)

※評価 A(目標達成):100≦ B(ほぼ達成):70≦、<100 C(できていない):<70 ※学校関係者評価 A:達成できている B:概ね達成できている C:できていない

評価項目	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	評価計画				学校関係者評価					
				目標達成のための方策	評価指標	目標値(A)	資料	評価値(B) アンケートは1月統計は2月	達成度(B/A)	評価	結果と課題の説明	評価	コメント
生徒指導	人権・同和教育の推進	人権・同和教育の体制作り	図書人権教育・生徒	①人権・同和教育に関するLHRの指導計画立案 ②道徳教育への積極的な取り組み ③生徒理解と信頼関係の確立 ④人権・同和教育に関する教職員研修の充実	学校では、面談などを通して生徒理解を行う努力がなされている。	90%	アンケート(生徒⑬)	85%	94%	B	⑨ 学校生活の場において、教職員は様々な場面で生徒と関わる事が多い。教職員の感性を高め、「気づき」を高めて、適切かつ効果的な声かけを行っていくことが大切である。「見て見えず、聞いて聞こえず」にならぬよう、より一層多様性のある生徒に対して積極的に関わっていく。(生徒部)今年度の6月に行った教職員研修は、弁護士を講師に招き主権者教育について説明を受けた。今後も世の中の情勢や学校が直面している問題に即した研修を企画していきたい。(図書人権教育部)	B	・全教育活動を通して、生徒一人ひとりを多面的、総合的に理解していくことが大切である。良い面を見つけて欲しい。 ・生徒は穏やかな表情で学校に通っている。日頃の挨拶やビジネスマナーの効果も出ている。 ・共感的理解を深め、生徒との信頼関係を構築して欲しい。
				学校では、教職員に悩みなどを相談できる雰囲気がある。	70%	アンケート(生徒⑭)	59%	84%	B				
				人権同和教育に関する教職員研修は有益であった。	80%	アンケート(教員⑮)	94%	118%	A				
進路指導	進路実現への支援	進路の実現のための支援体制作り	進路指導	①一人ひとりに応じた進路指導(進学補習・小論指導・面接指導等) ②生徒および保護者への進路情報(進路の手引・進路だより・進路行事等)の提供と活用 ③ハローワーク、松江市との連携による求人開拓 ④企業訪問等によるミスマッチの回避	在学中に就職先を内定する生徒の割合(内定率)。 ※3月15日現在	100%	統計資料	100%	100%	A	⑩ 就職に関しては、今年度は昨年度の64名から82名と希望者は多かったが、求人状況は大学生の求人確保困難から高校生に対して求人拡大の追い風となり、早期に希望の職種への内定を果すことができた。また、進学においては、多くが専門高校の特徴である資格取得等を生かした入試により良好な結果を出せた。	A	・県内企業は本校の生徒に大きな期待を寄せており、その期待に応えるべく、今以上に即戦力となる有為な人材を育成していくことが強く望まれる。 ・企業経営者から、実体験に応じた生きた話を聞く機会を作った欲しい。教員が言いにくいことも経営者なら言えることもある。
				①地元企業説明会の実施 ②進路座談会、進路講演会等の実施 ③進路の手引きの有効利用 ④企業訪問の実施	在学中に進学先を決定する生徒の割合(合格率)。 ※3月15日現在	100%	統計資料	100%	100%	A			
		望ましい勤労観・職業観の育成	学校から提供される進路情報は、自分の進路を考える上で役に立つ。	90%	アンケート(生徒⑯)	86%	96%	B	⑪ 「進路の手引」、「進路だより」や進路行事を通して情報提供の場を増やすよう努め、今後も学年会と連携して有効な活用を図っていききたい。				
特別活動	豊かな心の育成と情操の涵養	部活動の活性化	生徒	①各自の目標達成への支援 ②総体に向けての講演講師の招聘 ③総体パワーアップ週間の推進	部活動加入状況	90%	統計資料	91%	101%	A	⑫ 県高校総体において、「Aグループ男女総合6位、Aグループ女子総合1位(2年ぶり27回目)」という結果を残すことができた。今後も生徒自身で目標を立て、自己実現が目指せるよう支援を続けていく	B	・部活動の活性化は学校全体の活力につながる。教員の指導で大きな成果を上げている。一層の活躍を期待する。 ・読書活動は生徒の感性を磨く上で極めて大切である。 ・図書館は学校内での心のオアシスの存在であって良いものではないか。生徒達が喜んで来館する手立てから考えていって欲しい。
		読書習慣の育成	図書人権教育	①読書センターとしての役割を果たす ②学習・情報センターとしての役割を果たす ③朝読書をはじめとする読書活動の推進	図書館には読みたい本や調べ物に適した本が揃っている。	60%	アンケート(生徒⑰)	63%	105%	A	⑬ 利用する生徒の回答から現在の蔵書や選書は適切であると言える。それだけに図書館を利用する生徒が限定されていることや、利用者数が少ないことが悔やまれる。今年度は館内展示を図書委員会の生徒に任せましたが、生徒による本の紹介や展示をもっと積極的に取り入れていく必要がある。		
	他人を思いやる心、感動する心の育成	生徒会活動の活性化	生徒	①全校生徒、教職員、一体となった学校(生徒会)行事への取り組み ②各種委員会の活性化	わたしは、クラスの委員や係、または生徒会の活動に積極的に取り組んでいる。	70%	アンケート(生徒⑱)	69%	99%	B	⑭ 球技大会、瑞木祭(文化祭、体育祭)、各委員会等、主体的に取り組み、様々な活動を通して成長してきたと感じる。より自主的で創造的な活動ができるよう後押しをしていきたい。委員会の一層の活性化のために、教職員全体で取り組んでいく必要性を感じる。		
信頼される学校	開かれた学校づくりの推進	保護者との連携の推進	総務	①保護者面談の実施 ②保護者への文書による情報提供の充実 ③PTA活動の充実・推進 ④ホームページの定期的更新、メールマガジンの発行 ⑤PTA会報の発行	学校は、文書・ホームページ・メールマガジンなどを通じて情報を提供している。	80%	アンケート(保護者⑲)	89%	111%	A	⑮ ホームページについては、学校行事はほぼ全て当日、写真付きで様子を伝えるよう努めた。情報の更新頻度が高いため、閲覧者が増えている。また、保護者のメールマガジン受信の登録率は55%→60%→70%と年々増加しており、さらに登録者が増えるよう努め、行事予定や日々の出来事など、充実した情報を提供していきたい。	A	・HPの内容、更新頻度が格段に良くなった。引き続き頑張りたい。保護者の方もタイムリーに学校の様子を知り得る機会になっている。 ・学校のPRはしっかりなされているが、今後さらにあらゆるマスメディアを通して情報を提供していくことが必要である。平素の地道な広報活動が志願者確保につながるのではないか。 ・校内の活動は生徒会の執行部を中心として積極的に行われているが、今後は多くの生徒が校内だけでなくとどまらず、ボランティア活動や地域の人々との幅広い交流など、社会貢献や社会参加に関する活動を積極的に行っていくことが大切である。 ・近年SNSによる事件事故が多発している中で、その指導の充実に努めていく必要がある。
		地域との連携の推進	生徒	①地域ボランティアへの積極的な参加	わたしは、今年度、ボランティア活動に参加した。(部活動や生徒会単位の地域清掃などの活動も含む)	40%	アンケート(生徒⑳)	32%	80%	B			
	危機管理意識の向上	危機管理体制作り	保健・生徒	①教職員の危機管理に対する意識の高揚 ②危機管理に対する校内研修の実施 ③環境整備の充実 ④情報モラル教育の推進	救急法の教職員研修は、有益であった。	80%	アンケート(教員㉑)	84%	105%	A	⑰ 救急法は全教職員が必要知識として研修を続けた。生徒の現状に応じてエピペン等の研修も加えたい。		
					情報モラルの教職員研修は十分行われた。	80%	アンケート(教員㉒)	85%	106%	A	⑱ 外部講師を招いて全学年でも研修を実施した。個人情報取り扱いや携帯の使用によるトラブル等、日常で発生する恐れのあるケースについて、注意喚起できた。今後も一層、正しい知識を深めていく活動をしたい。		
					安全点検や清掃用具の点検・整備が行われ、環境整備が適切に行われた。	80%	アンケート(教員㉓)	91%	114%	A	⑲ 事務室の迅速な対応により、施設設備の補修・修繕ができていた。		